

おたふくかぜワクチン

ワクチンの接種について

おたふくかぜは耳の下が腫れることが主な症状ですが、その他の症状として、20人に1人くらいの割合で髄膜炎にかかったり、**1,000人に1人くらいの割合で耳が聞こえにくくなる（難聴）可能性があります。難聴になった場合一生不自由な思いをします。**また、成人になってからかかると不妊の原因になることがあります。

おたふくかぜは幼稚園や小学校で流行しますので、幼稚園に入る前までには受けたほうがいいでしょう。

ワクチンの副反応

2～3%の人に接種後2～3週ごろに耳の下が腫れることがあります。また、2000人に1人くらいの割合で髄膜炎になる可能性があるといわれていますが、自然におたふくかぜにかかったときよりも頻度はずっと少ないです。

また、急な副反応に対応できるように接種後30分は院内にいますようにしてください。

その他

おたふくかぜの予防接種をしたにもかかわらず、おたふくかぜにかかることがあります（約2割）が、多くは軽くすみます。

卵アレルギーのある人は注意が必要です。しかし、卵アレルギーがあるからといって必ずしも接種できないわけではありませんのでご相談ください。

妊娠されている女性のかたには接種できません。

ワクチンの2回接種について

おたふくかぜワクチンは2回接種が世界の標準的なやり方です。2回接種をすればおたふくにかかる可能性がより低くなりますので、**2回接種することをおすすめします。**2回接種をする場合、1回目から2、3年後、あるいは1回目を1歳時に接種し、2回目は就学前の年長時に麻しん風しん混合ワクチン（MR）と一緒に接種することをおすすめします。